

日语教学必备丛书

日语教育 基本用语辞典

高见泽孟 (日) / 主编

高见泽孟

伊藤博文

亨特荫山裕子 (日) / 著

池田悠子

西川寿美

恩村由香子

黄文明 / 译

日本語教育に携わるすべての方へ。
「これだけは」知っておかなければ
ならない知識が満載です。

日语教学必备丛书

日语教育 基本用语辞典

高见泽孟 (日) / 主编

高见泽孟

伊藤博文

亨特荫山裕子

池田悠子

西川寿美

恩村由香子

黄文明 / 译

日本語教育に携わるすべての方へ。
「これだけは」知っておかなければ
ならない知識が満載です。

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01-2009-3633

Copyright by Hajime Takamizawa, Hirofumi Ito, Yuko Kageyama Hunt, Yuko Ikeda, Sumi Nishikawa, Yukako Ommura 2004

Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

日语教育基本用语辞典/(日)高见泽孟主编;(日)高见泽孟等著;黄文明译.—北京:外语教学与研究出版社,2009.7

(日语教育必备丛书)

ISBN 978-7-5600-8815-0

I. 日… II. ①高… ②高… ③黄… III. 日语—语言教学—词典
IV. H369-61

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 119311 号

你有你“优”——点击你的外语学习方案

www.2u4u.com.cn

阅读、视听、测试、交流

购书享积分,积分换好书



出 版 人: 于春迟

责任编辑: 钟 诚

封面设计: 张 峰

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 中国农业出版社印刷厂

开 本: 889×1194 1/32

印 张: 10.75

版 次: 2009 年 7 月第 1 版 2009 年 7 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5600-8815-0

定 价: 27.00 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 188150001

出版说明

为适应日语学习者、日语研究者以及初涉日语教学的教师等各方面、多层次的需求，我社特地推出了《日语教学必备丛书》系列。本丛书收录内容丰富，既有适用于初学者的语音、语法教学方面的介绍，也有对日语研究者所最关注的新型理论研究成果的讲解，另有对日语教学中涉及到的功能句型、词汇、语法等方面的具体知识的指导，同时还广泛涉猎了与日语教学相关的语言、文化等的理论研究等。本系列覆盖面广、讲解精细，堪称是对日语教学经验的介绍和总结。

《日语教育基本用语辞典》为其中的一册，本书引进自日本 ASK 出版社（『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』），是一本全方位介绍日语教育用词的日语教学用书。本书根据日语教育现状，结合最新理论成果，对各种教学用词作了详尽的介绍和说明，能有效提高学习效果。书后附有日本已出版的教学方面的推荐用书。为了方便读者的理解，书中对部分术语进行了相应的翻译。

外语教学与研究出版社

2009年7月

はじめに

日本語教育では、外国人学習者の増加と多様化に伴って教師が必要とする「知識」も学際的な分野をも含んで拡大しつつあります。また、2003年度から「日本語教育能力検定試験」の試験範囲もコミュニケーション理論、学習者心理、第二言語習得理論、評価理論などの分野に重点を置く改訂が行われ、試験問題にもそれが反映されつつあります。

本書は、それらの現状を踏まえて、「わかりやすい用語事典」を目指して旧版の改訂、増補を行い、教育現場でのニーズにも、受験対策の参考書としても役立つよう刊行の準備を進めてきました。

ただ、本書の解説方針は、あくまでも各種専門用語の基本概念の理解促進にありますので、さらに高度の知識を得ることを望む学習者は、分野別に掲載されている参考図書を参照していただきたいと思います。

2004年3月

監修者 高見澤 孟

本書の使い方

本書は、日本語教育にまったく携わったことのない人から、現在日本語教育を学んでいる人、さらに実際に日本語教師をしている人まで、幅広く活用できるように作られた日本語教育の用語事典です。日本語教育にかかわる方々に必要とされていることばをわかりやすく解説しています。また、日本語教育能力検定試験対策にもご利用になれます。

全体構成

本書は、本編13章と参考図書・索引から成り立っています。

各項目

各項目は、基本用語を中心に、項目番号、英訳、類義語・同義語、説明、語句説明から成り立っています。英訳、類義語・同義語、語句説明はすべてにあるとは限りません。

① ^{ちよくせつほう}**直接法**② direct method③ 直接教学法 ……………ダイレクト・メソッド④
⑤ ^{ばいかいご}**媒介語**⑥(⑤)を使わず、目標言語(④)だけを使って外国語を教える教授法の総称。伝統的な「文法訳読法」⑤(⇒1-19)に対する反動から、(以下略)
⑥ ^{ばいかいご}**媒介語**(过渡语言)：外国語教育で意味や文法の説明に使われる言語。通常は学習者の母語が使われる。

①項目番号…見出しの横にある小さな番号です。章内で通し番号になっています。

②基本用語…大きな字で書いてある見出し語が基本用語です。

③英訳…英語でも使われる語には、英訳を付けました。

④類義語・同義語…見出し語と類義・同義の語を右側に載せました。

⑤説明…用語の説明があります。ほかで説明してある用語は(⇒1-19)というように参照項目を示しています。この場合、1-19は、第1章の19番目、つまり「文法訳読法」を参照するようにという意味です。章番号は右ページ端の黒い部分をご覧ください。

⑥語句説明…説明の中で重要な語や専門用語には(♣)として、下に説明を付けました。

参考図書

各章ごとに参考図書を紹介しています。どれも初心者にとって読みやすい本を選びました。参考にしてください。

索引

巻末に索引があります。索引の数字もページ番号ではなく、本文にある項目番号です。

周辺教材のお知らせ

「新・はじめての日本語教育 / はじめての日本語教育」シリーズには以下の製品があります。併せてご利用いただくとよりいっそう理解が深まります。

新・はじめての日本語教育 1

—日本語教育の基礎知識—

音声・文法・表記・語彙・社会言語学・心理学など日本語教育の基礎知識を満載。予備知識のまったくない人にもわかりやすいように解説しています。日本語教育検定試験対策の入門書としてもご利用いただけます。「音声」は『DVD はじめての日本語教育・1—日本語の音声—』に対応しています。

新・はじめての日本語教育 2

—日本語教授法入門—

日本語のコミュニケーション型指導法を学習者のレベル別に解説。日本語教師の役割・教師の心構えから、コースデザインや評価・外国語教授法など、理論から実践まで幅広く紹介しています。『DVD はじめての日本語教育・2—初級の指導一、一中上級の指導一』に対応。DVDとテキストでよりいっそう理解が深まります。

DVD はじめての日本語教育・1

—日本語の音声—

拍・アクセント・イントネーションなど日本語の音声の基礎知識が学べるDVD。書籍だけではわかりづらい日本語音声学の基礎が目と耳から楽々理解できます。個々の音については口内図を用いて丁寧に解説しています。学習者や教師の発音クリニックにも使えます。

DVD はじめての日本語教育・2

—初級の指導—

著者の先生の実際の授業を見ながら指導のイメージをつかめます。初級レベルの学習者を対象とした発音・会話の教え方を、導入→定着→実践の段階を追って解説。工夫を凝らした文字の教え方も紹介。テキスト『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』に対応。

—中上級の指導—

中上級レベルの学習者を対象としたロール・プレイ、シミュレーション練習、プロジェクト・ワークなどのコミュニケーション能力をつける練習法とテレビ・ドラマなどの生教材を使った授業を紹介。テキスト『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』に対応。

新・はじめての日本語教育

[基本用語事典]

目次

第1章	教授法	高見澤孟	1
第2章	コース・デザイン/教材	高見澤孟	41
第3章	評価法	高見澤孟	55
第4章	音声	伊藤博文	69
第5章	文法	ハント 蔭山裕子、恩村由香子	99
第6章	文字/表記	池田悠子	147
第7章	語彙/意味	池田悠子	163
第8章	言語学	西川寿美	177
第9章	社会言語学	伊藤博文	199
第10章	第二言語習得/バイリンガリズム	西川寿美	221
第11章	異文化間教育	西川寿美	251
第12章	日本語史/日本語学史	池田悠子	267
第13章	日本語教育史/日本語教育事情	高見澤孟	293
付録	参考図書ガイド		301
索引			305
著者略歴			334

第1章

教授法

教授法	2
いろいろな外国語教授法	8
教育技術/実習関連	33

● 教授法

きょうじゅほう

1 教授法 teaching method 教学法

教育を効果的に行うための方法論であるが、言語教授法は、(1) 言語の本質を考察して、それをいかに教えるべきかを検討する基礎理論、(2) 人がどのように言語を習得するかを研究し、言語をより効果的に学習する方法を検討する学習理論、(3) 教材をどう扱うべきか、どのような手順で指導すべきかなど教授方法を検討する指導法理論の3分野から成っている。教室内での授業は、(3)の指導法理論に基づいて行われるが、その具体的な指導方法は、基礎理論や学習理論で研究された仮説や原理を体系化した産物であると言える。

2 アプローチ approach 教学理论和方法

言語の本質やその習得・学習について仮説を立てて、それに基づいて体系化された言語学習理論。例えば、オーディオ・リンガル・アプローチ(☞ 1-30)は、「言語は構造体である」とか「言語は本質的に音声である」といった仮説に基づいているが、他方ナチュラル・アプローチ(☞ 1-54)では、「第二言語の能力は習得によって達成され、学習はそれを補足、訂正する従属的な役割しか果たしえない」という仮説がその理論の基礎になっている。このアプローチに従って考案されたさらに具体的な教授法手段がメソッド(☞ 1-3)であるが、この二つはしばしば混用されている。

3 メソッド method 方法

基礎理論であるアプローチ(☞ 1-2)に基づいて開発された言語の教授法。オーディオ・リンガル・アプローチの「言語の習得は習慣形成の過程である」という理論から「暗記・模倣」のミム・メモ練習(☞ 1-35)や文型練習(☞ 1-36)が開発されたのがその例である。

4 テクニック technique 技巧

効果的な授業を行うための技法。対話の発音教育に際して何をすべきか、ドリルをどう進めるべきかなど具体的な指導技術や秘けつを指す。

5 ^{だいいちげんご だいにげんご}第一言語/第二言語 first language/second language

第一语言（母语）/第二语言 ^{エルワン エルツー} L 1/ L 2

幼児が最初に習得する言語を第一言語と言う。これに対して、第一言語が確立してから、意識的に学習する言語を第二言語と言う。二言語使用者（☞ 10-55）の場合は、物を考えるときに主として使う言語を第一言語とする。（☞ 10-3、10-56 第一言語のバイリンガリズム、10-1 母語）

6 ^{もくひょうげんご}目標言語 target language 目標语言、目的語

.....ターゲット・ランゲージ

学習の対象になる第一言語（☞ 1-5）以外の言語（＝第二言語 L2）を言う。例えば、中国人に対する日本語教育では、日本語が目標言語で、中国語が第一言語になる。

7 ^{だいにげんごしゅうとく}第二言語習得 second language acquisition 掌握第二语言

ナチュラル・アプローチ（☞ 1-54）では、成人の第二言語学習には「習得」と「学習」の2種類があるとしている。前者は幼児が母語を身に付ける過程のように、実際のコミュニケーションの場でその言語を意識せずに使いながら能力を付けていく方法で、後者はクラスなどで意識的に言語の形式や規則を学ぶ方法を言う。円滑なコミュニケーションを行う第二言語の能力は「習得」によって達成され、「学習」は「習得」の補足的役割しか果たしえないとされる。

8 ^{のうりょく}コミュニケーション能力 communication competence 交际能力

言語的に正しい文を作り出すような能力だけでなく、状況に合った言語行動が可能で、しかも会話の主題や場所に適切で、相手との人間関係を良好に保てるような話し方や聞き方ができる能力を指す。この能力は、(1)「言語能力」、(2)「社会文化的能力」、(3)「方策的能力」(☞)から成ると考えられている。

^{げんごのうりょく}
言語能力（语言能力）：文法や用法、語彙力、発音能力などを駆使して、正しい文を作り出す能力。

^{しゃかいぶん か てきのうりよく}
社会文化的能力（社会交际能力）：社会的慣行に適合したコミュニケーションを行える能力。

^{ほうさくてきのうりよく}
方策的能力（対策能力）：相手の意図を正しく理解し、自説を上手に展開できる能力。さらに、言語能力が不足している場合、ほかの方法でそれを補う能力も含まれる。

^{げんご こうどう ひげん こうどう}
9 言語行動/非言語行動 language behavior/non-language behavior

语言行为/非语言行为

言語行動とは言語を意思伝達の手段として行う行為で、「話しことば」による聴覚的な伝達だけでなく、「書きことば」による視覚的な伝達も含まれる。それに対して表情や身ぶり、視線、話し手の身体の向き、相手との距離などや、アクセントなどの周辺言語（言語行動に伴って発生する声の質や高さ、音量、調子などを指す）を含めた行動を非言語行動と言う。言語行動によるメッセージが「意味」を伝えるのに対して、非言語行動は話し手の「気分」や「態度」を伝えるので、場合によってはより重要なメッセージであると考えられる。実際のコミュニケーションでは、意思の伝達はこの言語行動によるメッセージと言語によらない非言語行動のメッセージで行われる。

^{げんご てんい}
10 言語の転移 language transfer 语言迁移

第二言語や外国語の学習において、母語の言語習慣が意識的あるいは無意識的に目標言語に影響することを言う。このような転移は、文法、語彙や表現の用法、発音などのあらゆる面で見られる。（➡ 10-16 転移）

^{しんりげんごがく}
11 心理言語学 Psycholinguistics 心理语言学

言語行動の心理的な側面を研究する言語学と心理学の新しい学際的な分野。言語の「習得」と「使用」、「理解」と「産出（production 文を作り出す活動）」などの過程を解明することが中心課題となっている。

^{ちよくせつほう}
12 直接法 Direct Method 直接教学法

ダイレクト・メソッド

媒介語(☞)を使わず、目標言語(☞)だけを使って外国語を教える教授法の総称。伝統的な「文法訳読法」(☞ 1-19)に対する反動から、口頭言語能力の向上を目指して 19 世紀から 20 世紀初頭にかけて開発された教授法の多くが直接法に属している。これらは基本的には幼児が母語(☞)を習得するのと同じ方法で外国語を学習させようとしている。言語の意味は実物や絵、動作などを通して紹介し、文法は帰納的(☞)に学習させるなどの特徴がある。日本語教育では、学習者の母語がばらばらで、媒介語の使用が不可能なクラスで使われている例が多い。

ばいがいご

媒介語 (过渡语言)：外国語教育で意味や文法の説明に使われる言語。通常は学習者の母語が使われる。

もくひょうげんご

目標言語 target language (目標语言)：学習の対象になっている言語。(☞ 1-6)

ぼご

母語 mother tongue (母语)：幼児が最初に習得する言語。(☞ 10-1) ≡ 第一言語(☞ 1-5)

きのうてきがくしゅう

帰納的学習 (归纳性学习)：多くの実例に接してから、そのルールを発見する学習法。これに対してルールを説明してから実例を学ばせるような学習方法は、^{えんえきてきがくしゅう}**演繹的学習**と言う。

せつちゅうほう

13 **折衷法** eclecticism 折中教学法

直接法(☞ 1-12)と媒介語を使用する教授法の中間的な教え方。(1)テキストには媒介語による対訳や文法・用法の説明があるが、教師は授業では目標言語しか使わない方法と、(2)テキストには媒介語が使われていないが、教師が媒介語を使ってテキストの内容を翻訳したり、文法や用法の解説をしたりする方法がある。日本語教育の場合、(1)は国内の日本語学校などでよく使われ、(2)は海外の大学などの教育機関で行われていることが多い。

やくどくけい

14 **訳読系メソッド** Translation Methods 翻译教学法

外国語を学習者の母語に翻訳することを通して教育する教授法。中世のラテン語教育などに用いられた文法訳読法(☞ 1-19)などが代表的な例である。

学習の対象は「書きことば」で、読むことが学習の主体になる。文法・用法は演繹的に教えられ、翻訳を通して意味の理解や母語との対比が教えられる。文献から情報を収集する訓練としては効果的であるが、口頭会話能力の育成には向いていない。訳読系メソッドには、ほかにもプラクティス・メソッド(♢)やマスタリー・メソッド(♢)などがある。

プラクティス・メソッド Practice Method (練習教学法)：日常会話を訳読法を通して学習させる教授法。19世紀にオーレンドルフ(H. S. Ollendorff)によって提唱された。(☞ 1-20)

マスタリー・メソッド Mastery Method (黙誦教学法)：目標言語の文を暗唱できるまで反復練習してから、教師がその文を翻訳し、さらに学習者に翻訳させて、徹底的に学習させる教授法。19世紀にプレンドガスト(T. Prendergast)によって提唱された。

15 ^{けい}ダイレクト系メソッド Direct Methods 直接教学法

..... ^{ちよくせつほうけいきようじゅほう} 直接法系教授法

母語の習得過程を「自然的な順序」として外国語教育に取り入れた教授法で、口頭会話能力を優先した直接法 (☞ 1-12) 系統の教授法の総称。訳読系(☞ 1-14)の教授法とは対照的に、この系統の教授法は媒介語の使用を徹底的に排除する。新しく導入されることばの意味が、事物を通して直接(ダイレクトに)ことばと結び付けられることを理想としている。ダイレクト系メソッドには、グアンのサイコロジカル・メソッド(♢)やベルリッツのナチュラルメソッド(♢)、パーマーのオーラル・メソッド(♢)などがある。

サイコロジカル・メソッド Psychological Method (心理教学法)：19世紀の後半にグアンが幼児の言語習得における心理的側面を重視して開発した直接法。幼児は思考の順序に従ってことばを用いるところから、教材を思考の順に配列することなどを特徴としている。(☞ 1-22)

ナチュラル・メソッド Natural Method (自然教学法)：19世紀後半にベルリッツなどによって提唱された教授法。幼児の言語習得の過程を最も理想的な外国語学習のモデルとして、外国語の音声とその概念の直接連合(direct

association)を目指す直接法。(☞ 1-21)

オーラル・メソッド Oral Method (口授教学法): イギリスの言語学者・パーマーによって開発された教授法で、日本の英語教育、日本語教育に大きな影響を与えた。(☞ 1-25)

16 にん ち けい 認知系メソッド Cognitive Cod-Learning Methods 認知代码学习法 ……

キャロル (J. B. Carroll) が 1965 年に提唱した認知記号学習理論 (Cognitive Code-Learning Theory, ☞ 1-46) 系統の教授法。構造言語学や行動心理学に基づくオーディオ・リンガル・アプローチに対する批判 (☞ 1-31) から生まれたもの。理論的根拠を当時の生成文法理論 (☞ 1-47) や認知心理学 (☞ 1-46) に求め、「学習はすべて認知である」という基本理念から、オーディオ・リンガル・アプローチの習慣形成理論 (☞) や直接法的な文法の帰納的学習 (☞) を排除した。理解に基づく学習を目指し、文法も構造的練習に先立って演繹的 (☞) に提示し、類推を働かせて分析的に学ばせる方針を採っている。

しゅうかんけいせい りろん
習慣形成理論 (习惯形成理论): 言語は習慣であり、言語の学習とは新しい習慣を獲得することで、そのためには学習項目の反復繰り返し練習が必要であるとする理論。

き のうてきかくしゅう
帰納的学習 (归纳学习): 多くの実例に接して、そこからルールを学び取る学習方法。

えんえきてきかくしゅう
演繹的学習 (演绎学习): ルールを教えてから実例を示し、それを分析的に理解する学習方法。

17 ちようかいけい 聴解系メソッド Comprehension Methods 傾聴理解学习法 ……………

言語の習得において、「理解」が基本的な役割を担うという考えから、発話能力よりも聴解能力の育成を優先させ、発話のための口頭練習は聴解能力が向上するまで延期する教授法。この系統の教授法には、ポストフスキーのコンプリベンション・アプローチ (☞ 1-42)、アッシャーの TPR (☞ 1-50) やウィニッツの OHR メソッド (☞ 1-43)、クラッシェンのナチュラル・アプローチ (☞ 1-54) などが属する。